



平成29年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成29年2月13日

上場取引所 東

上場会社名 福留ハム株式会社

コード番号 2291 URL <http://www.fukutome.com/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 中島 修治

問合せ先責任者 (役職名) 経理支援部長

(氏名) 深町 誠

TEL 082-278-6161

四半期報告書提出予定日 平成29年2月14日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成29年3月期第3四半期の連結業績(平成28年4月1日～平成28年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年3月期第3四半期	20,873	△5.4	434	△29.0	507	△22.2	352	△20.7
28年3月期第3四半期	22,054	△0.1	612	47.2	652	63.0	444	89.5

(注) 包括利益 29年3月期第3四半期 535百万円 (△7.1%) 28年3月期第3四半期 576百万円 (△14.1%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
29年3月期第3四半期	21.13	—
28年3月期第3四半期	26.62	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
29年3月期第3四半期	18,682	6,340	33.9
28年3月期	16,561	5,856	35.4

(参考) 自己資本 29年3月期第3四半期 6,339百万円 28年3月期 5,856百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
28年3月期	—	0.00	—	3.00	3.00
29年3月期	—	0.00	—	—	—
29年3月期(予想)	—	—	—	3.00	3.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成29年3月期の連結業績予想(平成28年4月1日～平成29年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	29,600	4.6	480	△21.0	500	△23.0	290	140.0	17.06

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

29年3月期3Q	17,000,000 株	28年3月期	17,000,000 株
② 期末自己株式数	311,643 株	28年3月期	309,094 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	16,689,961 株	28年3月期3Q	16,691,846 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

・この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期レビューの手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1.当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
(4) 追加情報	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府による経済政策を背景に、企業収益の改善や雇用・所得環境の改善がみられるものの、引き続き個人消費が伸び悩み、円高や株式市場の低迷に加え、アジア経済新興国等の景気の下振れや米国新政権後の政策動向に対する懸念等があり、依然として先行き不透明な状況で推移いたしました。

当業界におきましては、輸入原料価格は安定したものの、国内牛肉相場は高値が継続し、消費者の低価格志向や競合他社との価格競争も激化し、依然として厳しい状況で推移いたしました。

このような状況のなか、当社グループは、「お客様第一にあふれる味覚をお届けします」をモットーに「安心・安全・美味しさ」を追求し、創業100周年に向けて経営理念のさらなる浸透を図るとともに、コンプライアンスを重視した社員教育を実施いたしました。また、グループ全社を挙げて作業効率の改善や仕入の見直しを重視し、コスト削減努力を継続して行ってまいりました。

販売に関しましては、「花ソーセージ」シリーズのテレビCM放映や福留ハムの今を伝える情報誌”ザ・プレミアムブック”創刊号・Ⅱ号・Ⅲ号を発刊し、販売促進に繋げ、コンビニエンスストア・ドラッグストアでの販売、そして「ロマンティック街道」シリーズに加え、マイスターこだわりの「広島港町ハム工房」シリーズや真空調理の「ロースト」シリーズなどの高付加価値商品の販売強化を進めてまいりました。また、ギフトにおきましても「宮島」・「弥山(みせん)」ギフトに加え、「銀の食卓」シリーズや「佐賀牛」ローストビーフ等を発売し、商品の充実を図ってまいりました。さらには、「広島東洋カープ」の応援セールや優勝セールを実施し、販売の拡大を図ってまいりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は、208億73百万円(前年同四半期比5.4%減)となりました。利益につきましては、営業利益は4億34百万円(前年同四半期比29.0%減)、経常利益は5億7百万円(前年同四半期比22.2%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益は3億52百万円(前年同四半期比20.7%減)となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

加工食品事業

加工食品事業につきましては、「花ソーセージ」シリーズを始めとして「ロースト」シリーズや「弥山」ブランド、さらには「広島東洋カープ」とのタイアップ商品等が堅調に推移しましたが、企業間競争の激化などにより売上高は減少いたしました。

その結果、売上高は93億96百万円(前年同四半期比5.6%減)、セグメント利益(営業利益)は6億79百万円(前年同四半期比6.5%減)となりました。

食肉事業

食肉事業につきましては、国産牛肉において、依然として高値相場の継続による消費離れが進み、売上高、販売量とも大幅に減少しました。国産豚肉においては、国産牛肉の代替需要があるものの、価格の競争激化や国内豚の供給回復、輸入ミートの価格の下落により国内豚肉の単価も下落し、売上高は減少しました。輸入ミートにおいては、国産牛肉の代替需要や現地価格の下落により売上高、販売量とも増加しましたが、販売価格の高い国産牛肉の落ち込みをカバーするまでにはいたりませんでした。

その結果、売上高は114億76百万円(前年同四半期比5.2%減)、セグメント利益(営業利益)は1億31百万円(前年同四半期比48.2%減)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産の部)

当第3四半期連結会計期間末の資産合計は、前連結会計年度末に比べ21億20百万円増加の186億82百万円となりました。

流動資産は、前連結会計年度末に比べ18億24百万円増加の92億92百万円となりました。主な要因は、現金及び預金5億69百万円と受取手形及び売掛金13億4百万円の増加によるものであります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べ2億95百万円増加の93億90百万円となりました。主な要因は、土地2億46百万円と投資有価証券2億13百万円の増加によるものであります。

(負債の部)

当第3四半期連結会計期間末の負債合計は、前連結会計年度末に比べ16億35百万円の増加の123億41百万円となりました。

流動負債は、前連結会計年度末に比べ10億66百万円増加の89億53百万円となりました。主な要因は、支払手形及び買掛金8億60百万円と短期借入金3億34百万円の増加によるものであります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べ5億69百万円増加の33億88百万円となりました。主な要因は、長期借入金5億46百万円の増加によるものであります。

(純資産の部)

当第3四半期連結会計期間末の純資産合計は、前連結会計年度末に比べ4億84百万円増加の63億40百万円となりました。主な要因は、その他有価証券評価差額金1億63百万円の増加によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の業績予想につきましては、平成28年5月13日に公表いたしました業績予想の変更はしておりません。今後、何らかの変化がある場合には適切に開示してまいります。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(会計方針の変更)

法人税法の改正に伴い、「平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第32号 平成28年6月17日)を第1四半期連結会計期間に適用し、平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更しております。

なお、当第3四半期連結累計期間において、四半期連結財務諸表への影響額は軽微であります。

(4) 追加情報

(繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を第1四半期連結会計期間から適用しております。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成28年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,347	3,916
受取手形及び売掛金	2,709	4,013
商品及び製品	930	947
仕掛品	43	47
原材料及び貯蔵品	316	303
繰延税金資産	82	38
その他	40	33
貸倒引当金	△1	△9
流動資産合計	7,467	9,292
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	1,924	1,850
機械装置及び運搬具(純額)	533	473
土地	3,344	3,591
リース資産(純額)	305	274
その他	32	31
有形固定資産合計	6,140	6,222
無形固定資産	101	84
投資その他の資産		
投資有価証券	2,282	2,496
繰延税金資産	365	357
その他	368	392
貸倒引当金	△164	△162
投資その他の資産合計	2,852	3,083
固定資産合計	9,094	9,390
資産合計	16,561	18,682

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成28年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,236	3,097
短期借入金	4,501	4,835
未払法人税等	210	43
賞与引当金	191	95
その他	747	881
流動負債合計	7,887	8,953
固定負債		
長期借入金	252	798
役員退職慰労引当金	301	288
退職給付に係る負債	2,023	2,073
その他	240	226
固定負債合計	2,818	3,388
負債合計	10,705	12,341
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,691	2,691
資本剰余金	1,503	1,503
利益剰余金	1,115	1,418
自己株式	△78	△79
株主資本合計	5,232	5,534
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	772	936
退職給付に係る調整累計額	△149	△130
その他の包括利益累計額合計	623	805
非支配株主持分	0	0
純資産合計	5,856	6,340
負債純資産合計	16,561	18,682

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)
売上高	22,054	20,873
売上原価	17,780	16,784
売上総利益	4,274	4,088
販売費及び一般管理費	3,661	3,653
営業利益	612	434
営業外収益		
受取利息及び配当金	35	35
不動産賃貸料	41	42
貸倒引当金戻入額	-	37
その他	26	13
営業外収益合計	103	129
営業外費用		
支払利息	62	55
その他	1	1
営業外費用合計	63	56
経常利益	652	507
特別利益		
固定資産売却益	0	-
投資有価証券売却益	33	0
特別利益合計	33	0
特別損失		
固定資産除却損	0	0
投資有価証券売却損	-	0
環境対策費	19	-
特別損失合計	19	0
税金等調整前四半期純利益	666	507
法人税、住民税及び事業税	207	150
法人税等調整額	14	3
法人税等合計	221	154
四半期純利益	444	353
非支配株主に帰属する四半期純利益	0	0
親会社株主に帰属する四半期純利益	444	352

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)
四半期純利益	444	353
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	114	163
退職給付に係る調整額	18	18
その他の包括利益合計	132	182
四半期包括利益	576	535
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	576	534
非支配株主に係る四半期包括利益	0	0

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント		合計
	加工食品事業	食肉事業	
売上高			
外部顧客への売上高	9,949	12,104	22,054
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—
計	9,949	12,104	22,054
セグメント利益	726	254	981

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容
(差異調整に関する事項)

(単位：百万円)

利益	金額
報告セグメント計	981
全社費用(注)	△368
四半期連結損益計算書の営業利益	612

(注)全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であり、管理部門に係る費用であります。

II 当第3四半期連結累計期間(自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント		合計
	加工食品事業	食肉事業	
売上高			
外部顧客への売上高	9,396	11,476	20,873
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—
計	9,396	11,476	20,873
セグメント利益	679	131	811

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容
(差異調整に関する事項)

(単位：百万円)

利益	金額
報告セグメント計	811
全社費用(注)	△376
四半期連結損益計算書の営業利益	434

(注)全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であり、管理部門に係る費用であります。